

絵本の読み聞かせ時における挿入質問が幼児に及ぼす影響

野崎 美衣¹⁾・成田 泉²⁾・水内 豊和

Practical study of the effects of questions about picture books in story telling

Mie NOZAKI, Izumi NARITA & Toyokazu MIZUUCHI

絵本の読み聞かせ時に挿入質問をすることは、保育者の経験則からはタブーとされ、また構造化された場での心理実験においては絵本の内容の理解に効果的であるとされるなど、その是非については実践場面におけるエビデンスがないままであった。本研究では、実際の保育場面において保育士が絵本を読み聞かせた後、挿入質問無し、事象質問あり、心情質問あり、どちらもあり、の4つの設定において子どもがどのような反応を示すのかをビデオと観察記録から検討した。その結果、挿入質問をおこなった場合においても園児らの絵本に対する楽しみは奪われておらず、むしろ適切な質問は、読み聞かせをより楽しむことを促進することにつながることを示唆された。保育場面における絵本というメディアとの適切な付き合い方に関する一つの有益な知見を得ることができたと考える。

キーワード：絵本、読み聞かせ、挿入質問、事象質問、心情質問

Key words : picture book, story telling, insertion question, event question, emotional question

1. 問題の所在と目的

絵本とは「絵のみ、もしくは絵と文の2つのメディアを使い、1つの主題をもとに、物語、イメージおよびある概念・知識のまとまりなどを表した本」と定義されており^[1]、子ども達は、絵本を読んだりすることやめくったりすることを通して遊びへの意欲が培われること、イメージを膨らませることによってごっこ遊びや劇遊びへのつながりとなることなど、保育場面において多くの役割が期待されている。特に集団保育において絵本の読み聞かせをおこなう場面に着目すると、尾崎は自らの長年の保育経験に基づき、絵本の選び方及び絵本の読み方についていくつかのポイントが重要であると述べている^[2]。その中でも絵本の読み方について着目しポイントをみると、絵本の持ち方や声の大きさ、抑揚のつけ方など様々な観点から9つのポイントがあげられている。これらのポイントの中でも特に、いたずらな注釈や説明は子どもたちの想像力をこわし、絵本の本当の楽しみを奪い、結果的に子どもたちを絵本から遠ざけてしまうという理由から

「読んでいる最中の大人からの説明や質問はしない」という項目があげられている。

一方で今井・森田・杉山は発達心理学的見地から、幼稚園年長児90名に対して個別におこなった実験により、物語を読み聞かせる場合の挿入質問は物語の登場人物の心情を問う内容の心情質問と、物語の内容そのものに関する内容を問う内容の事象質問とに分類され、園児らに事象質問をおこなうと物語理解に効果があることや、心情質問をおこなうと物語の登場人物の心情理解に効果があることを示している^[3]。

このことから、一概に読み聞かせの場面において園児らに挿入質問をしてはいけないということは断言できず、挿入質問の内容や絵本の場面によって読み聞かせにおいてもたらされる園児らへの影響は異なることが考えられる。

ところで、水内らは、T県内全保育所の保育士を対象に、筒井頼子著『はじめてのおつかい』を読む場面を想定して読み聞かせをおこなう際に重要視しているポイントについて及び、保育士の保育全般における自己評価について質問紙にて調査している^{[4][5]}。そして因子分析の結果、“全保育場面における自己評価が高い保育士は、より読み聞かせにおけるポイントを重視

1) 学校法人剛琳寺学園 めぐみ幼稚園

2) 医療法人 平谷こども発達クリニック

している”ということが示唆されている。

そこで本研究では、集団保育場面における読み聞かせにおいて、事象質問と心情質問の二種類の挿入質問をおこなうことによる子どもへの影響について実証的に検討することを目的とする。また、その際に保育士の自己評価の違いについても考慮することとする。

2. 方法

(1) 調査対象と手続き

まず、T県内の保育園のうちH保育園（32名）及びJ保育園（15名）の2ヶ所の保育園の保育士に対し、水内らの先行研究^[5]で用いられた「絵本の読み聞かせにおいて重要視しているポイント」、「保育場面における保育士の自己評価」についての5件法のアンケートを実施した。ここでいう“自己評価”とは、水内ら^[4]のT県内の保育士115名に対しておこなった保育士として保育において重要するポイントは何かを問う自由記述式のアンケートにおいて抽出された9つのカテゴリーをもとに全120項目からなる質問項目を使用した。それぞれに対し保育士が自分の保育を振り返った際に各項目に挙げられているポイントをどれ程度意識しているのかをたずねるものであり、本研究においては、全項目の平均得点を基準とした。このアンケート調査から、それぞれの保育園において自己評価の高い保育士と自己評価の低い保育士を複数名抽出し、その中から現在、3歳以上の園児の担任をしている保育士を1名ずつ抽出し、本研究への協力を依頼した。なお、普段の保育への影響を考慮し、本研究への協力を依頼する際には主任保育士のみそれぞれ保育士の選定理由を説明し、本人達には自己評価の結果については伝えていない。

読み聞かせをおこなう対象は各園の年長児クラスとし、読み聞かせをおこなう際に学生が2～3名一緒に読み聞かせを聞くこと、及びビデオカメラで読み聞かせの様子を撮影することを園児らにわかりやすいように年長児の担任から事前に伝えてもらった。

倫理的配慮として、ビデオカメラによる撮影の映像や記録した園児らの様子は、本研究にのみ用いられるものであり個々の保育園や園児が特定されることはないことを保護者に対し書面にて説明し同意を得た。

(2) 実践内容

①読み聞かせの対象の選定

『新・保育士養成講座』^[6]によると、おおむね5歳から6歳の発達過程ではねらいを「絵本、童話、視聴覚

教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しみ、イメージを豊かに広げる」「絵本や童話、視聴覚教材などを見たり、聞いたりして、様々なイメージを広げるとともに、想像することの楽しさを味わう」と述べられており、読み聞かせにおいて挿入質問をするにあたり心情質問をおこなう際に物語の流れや内容を理解したうえで、登場人物の心情を想像しなければならないという理由から、年長児を対象とすることとし、H保育園年長児24名、J保育園年長児36名の計60名の年長児を対象とした。

②保育士の選定

H保育園、J保育園それぞれで勤務する保育士に水内らの先行研究^[5]で用いられた「絵本の読み聞かせにおいて重要視しているポイント」、「保育場面における保育士の自己評価」についての5件法のアンケートを実施し、自己評価の高い群と低い群に分類した。なお、自己評価の高低を分類する際には、各園ごとに各保育士の自己評価に関するアンケートの平均得点を出し、最も平均得点が高い保育士3名を自己評価高群、最も平均得点が高い保育士3名を自己評価低群とした。次に、本研究では読み聞かせをおこなう対象を年長児としたため、それぞれの園においても、普段から年長児と顔を合わせることをある3歳以上の園児を担当する保育士を自己評価高群3名のうち1名、低群3名から1名をそれぞれ選定した。それぞれの保育士のプロフィールを表1に示す。

表1 各保育士のプロフィール

	性別	自己評価	年齢	保育経験年数	現在の担当	所属
A保育士	女	高	24歳	4年	3・4・5歳児	H保育園
B保育士	女	低	29歳	9年	3・4・5歳児	H保育園
C保育士	女	高	30歳	9年	年少	J保育園
D保育士	女	低	26歳	6年	年中	J保育園

③絵本の選定と挿入質問

『新・保育士養成講座』^[6]において絵本は、子どもの日常生活における基本的な生活習慣を描いた「生活習慣に関する学習絵本」、子どもの日常生活においてふれるものや、社会生活を営むうえで用いたり利用したりする「物や生き物などに関する絵本」、おなじみの昔話や伝承話、そして童話などの名作を題材に扱っている「昔話・童話・寓話などの絵本」、現代において創作されたお話を基にしている「創作・物語絵本」、知識情報に関するあらゆるジャンルの学習促進や興味・関心をい

かせる「学習・観察絵本」、飛び出す絵本などのしかけのある「ポップアップ絵本」の6種類に分類されている。

今回はこの中でも近年の子どもたちになじみがある「創作・物語絵本」を用いることとし、平成19年に全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の調査広報委員会がおこなった『子どもたちに読み聞かせたい絵本アンケート』のうち、“教師の立場として子どもに読んであげたい絵本”として年長児クラスの担当教諭が答えたものにおいて上位を占めたもので^[7]、なおかつ、計4回の実践を通して、登場人物が大きく変化しないことで、絵本に連続性があり心情質問などをおこなう際

により園児らが登場人物の気持ちに寄り添いやすいことを考慮し、4巻以上のシリーズものの絵本である『ともだちやシリーズ』（偕成社）及び『ティラノサウルスシリーズ』（ポプラ社）を選定した。

④実践回数

読み聞かせをおこなう際に、各園において1グループ12名から18名程度とし、自己評価の高い保育士、自己評価の低い保育士の2グループに分け、それぞれのグループにおいて「挿入質問なし」、「事象質問あり」、「心情質問あり」、「事象質問・心情質問あり」の計4回の読み聞かせを週に1回おこなった（表2）。

表2 各保育園における絵本と挿入質問

実施回	設定	H 保育園 A・B 保育士	J 保育園 C・D 保育士
1回目	挿入質問なし	「ともだちや」	「おまえうまそうだな」
2回目	事象質問	「ともだちくるかな」 ・オオカミは誰のことを待っているのか ・暴れると寂しい気持ちはなおるのか ・オオカミの誕生日はいつか ・キツネからもらったプレゼントは何か	「おれはティラノサウルスだ」 ・絵本に出てきた恐竜の名前は何か ・ブテラノドン体の色は何色か ・恐竜の赤ちゃんはどこから生まれてきたか ・絵本の中でケガをした恐竜は誰か
3回目	心情質問	「あしたともだち」 ・オオカミがさっさと帰ってしまっただけでキツネはどんな気持ちだったか ・オオカミはどんな気持ちでクマの看病をしているのか ・オオカミはクマのからかい歌をどんな気持ちで歌っていたか ・キツネはオオカミのことをどう思っていたか	「きみはほんとうにステキだね」 ・絵本に出てきたティラノサウルスはとても怖いティラノサウルスだったか ・心がポツと温くなったのはどうしてか ・ティラノサウルスはどうして嘘をついたのか
4回目	事象質問 心情質問	「ごめんねともだち」 ・オオカミとキツネと一緒にしていた遊びは何か ・キツネはオオカミに「いんちき」と言われてどんな気持ちだったか ・オオカミとキツネが仲直りできたのはケンカしてから何日目か ・オオカミはどのようにしてキツネに「ごめん」と言えなかったのか	「あなたをずっとずっとあいつてる」 ・卵から生まれた赤ちゃんの名前は何か ・マイアサウラのお母さんと子ども達が好きな実は何色か ・最後に赤い実を食べたときのマイアサウラのお母さんはどんな気持ちだったか

なお、挿入質問をおこなう際には保育士同士でどのような質問をおこなうか話し合ってもらい園児に質問をおこなう内容とそのタイミングを合わせることにしたが、絵本の読み方や質問の仕方、読み聞かせ中の園児らへの接し方などについては、それぞれの保育士が普段の保育場面において園児らとかわるようによく接する態度で接するように心掛けてもらった。

⑤実践環境

それぞれの読み聞かせの声が気にならないよう、読み聞かせをおこなう際には別室または時間帯をずらすなどの配慮をおこなった。また、園児らは椅子に座り2～3列になり読み聞かせを聞いており、いずれの保育士も園児らが座っている椅子よりも少し高めの椅子に座りながら読み聞かせをおこなった。この際ビデオカメラを保育士のななめ後ろから園児らの表情が撮影できるように置き、座っている園児らの両端に特別支援教育および幼児教育を専門に学ぶ学生が座ることで読み聞かせ中の園児らの観察記録をとった。

⑥評価の観点

読み聞かせをおこなっているときの保育士の姿及び園児らの姿やつぶやき、質問時の応答などの様子から読み聞かせによる園児らへの影響を検討することとした。なお、分析をおこなう際には実践時の様子を撮影したビデオ及び、読み聞かせを園児らと一緒に聞いていた学生の観察記録を用いた。

3. 結果

結果の概要を表3に示す。読み聞かせをおこなう際に、4名の保育士全員に当てはまる特徴として、下線部(A)“登場人物によって声色を変える”及び、下線部(B)“声の強弱をつける”の2点が挙げられる。その他にも右手と左手で違いはあるものの園児ら全員に絵本が見えるように提示している点も共通している。

各回ごとに特徴をみていくと、「第1回目：挿入質問なし」（表3-1）の際にはそれぞれの保育士の間で園児らに対する対応に大きな差はなく、自己評価低群

表3-1 読み聞かせ中にみられた保育士及び園児らの特徴（挿入質問なし）

自己評価	所属	保育士の姿	園児の姿
自己評価高群	H 保育園 A 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を左手で持つ ・座って読み聞かせをおこなう ・登場人物によって声色を変える (a) ・声の強弱をつける (b) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の場所で過ごしている他児の様子を気に掛ける ・窓の外を見る ・隣の友達と話をする ・体を揺らしながら読み聞かせを聞く ・読み聞かせ後に背伸びをする (c) ・読み聞かせ後に“ともだちや”の真似をする
	J 保育園 C 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を左手で持つ ・座って読み聞かせをおこなう ・登場人物によって声色を変える (a) ・声の強弱をつける (b) 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの友達と話をして笑いあう ・椅子を絵本の方に向ける ・前のめりな姿勢になる ・読み聞かせ後に背伸びをする (c) ・読み聞かせ後に絵本が「長かった」と発言する (d)
自己評価低群	H 保育園 B 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を右手で持つ ・立って読み聞かせをおこなう ・静かに読み聞かせを聞くように園児らに呼びかける ・登場人物によって声色を変える (a) ・声の強弱をつける (b) 	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子から身を乗り出しながら絵本を見る ・前のめりな姿勢 ・口が半開き ・読み聞かせ後に素早く自由遊びに向かう ・“ともだちや”について友達と話をする ・読み聞かせ後に感想を述べる
	J 保育園 D 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を左手で持つ ・座って読み聞かせをおこなう ・登場人物によって声色を変える (a) ・声の強弱をつける (b) ・擬音語にあわせて絵本をゆらす (e) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ前、ビデオカメラを意識している ・前のめりな姿勢 ・口が半開き ・読み聞かせ後に背伸びをする (c) ・読み聞かせ後に「疲れた」と発言する (d)

の保育士が“静かに読み聞かせを聞くように園児らに促す姿”や“擬音語に合わせて絵本を揺らす姿”がみられただけであった。園児らの反応については実践の第1回目ということで窓の外を見たり、体を揺らしたりと落ち着きのない姿がしばしば確認されたが、読み聞かせが進むに連れて絵本に集中していく様子がみられた。また、H保育園では読み聞かせが終わった後に園児らが波線部 (a) のように背伸びをしていることやJ保育園では波線部 (b) 及び、波線部 (c) のように「疲れた」や「長かった」と発言している姿から、読み聞かせがおこなわれている間に静かに集中し続けることは園児らの負担になっていることなどが共通点として挙げられる。

「第2回目：事象質問あり」(表3-2) の際には、質問に対し園児らが答えを述べた場合に全ての保育士が下線部 (C) のように絵本の該当するページを全員に見せることで質問に対する答えの確認及び共通理解を図っている様子がみられた。さらに、質問に正解した園児に対しては「すごいね」や「よくみていたね」というように声掛けをおこなう姿がみられた。絵本の読み方については様々であり下線部 (D) のように場面によって絵本を揺らしながら読み聞かせをおこなったり、下線部 (E) のように表現の一部を動作化したりすることで園児らに絵本の内容を伝える姿がみられた。

「第3回目：心情質問あり」(表3-3) の際には、事象質問の場合とは異なりどの保育士も下線部 (F) のように園児らの発言を受け止め、肯定あるいは称賛するという反応がみられた。また、挿入質問を読み聞かせの最後におこなったJ保育園では特に、下線部 (G) のように保育士が園児らに絵本を見せ質問に至るまでの物語の内容を確認したうえで質問をおこなう姿がみられた。また、各保育園において自己評価の高い保育士は園児らから返答が得られない場合もそのまま絵本を読み進めたり保育士なりの見解を述べたりする姿がみられたが、自己評価の低い保育士は、園児らだったらどうするのかということや、質問と関連のある場面を振り返るといった姿がみられた。

園児らの様子を見ると、心情質問をおこなった第3回目よりも事象質問をおこなった第2回目のほうが質問をおこなった際に、より積極的に手を挙げて発言している様子であった。

「第4回目：事象質問・心情質問あり」(表3-4) の際に、保育士らはそれぞれの質問をおこなう前に、下線部 (G) のように一度物語の流れを全体で確認している姿が多くみられた。また、園児らが事象質問に答えた際には絵本を用いて答えの確認を全体でおこない、心情質問に答えた際には下線部 (F) や下線部 (H) のように、質問に対する正解などを決めることはなく、園児の発言を繰り返したり、受け止めたり、発言した

表 3-2 読み聞かせ中にみられた保育士及び園児らの特徴（事象質問あり）

自己評価	所属	保育士の姿	園児の姿
自己評価高群	H 保育園 A 保育士	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を左手で持つ 絵本のタイトルを全員で読む 登場人物によって声色を変える (a) 声の強弱をつける (b) 絵本の文中にある行動を動作化してみせる (c) 歌の場面で絵本を横に揺らす (d) 質問の答えを絵本で確認し全体で共有する (e) 質問に対し正解した園児を称賛する 	<ul style="list-style-type: none"> 擬音語を真似て口ずさむ 絵本の内容について疑問や感じたことを発言する 質問に答えずじっと絵本を見つめる 保育士の呼びかけに反応して姿勢を直す 手を挙げて質問に答えようとする (f)
	J 保育園 C 保育士	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を左手で持つ 登場人物によって声色を変える (a) 声の強弱をつける (b) 事前に質問をおこなうことを伝えてよく話を聞くように促す 質問の答えを限定しない 質問の答えを絵本で確認し全体で共有する (e) 園児らが疑問に思ったことを全体に説明する 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本のタイトルを見て反応する 椅子から身を乗り出す 絵本の内容に対し自分の思いをつぶやく 手を挙げて質問に答えようとする (f)
自己評価低群	H 保育園 B 保育士	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を右手で持つ 登場人物によって声色を変える (a) 声の強弱をつける (b) 質問のことをクイズと表現する 質問の答えを絵本で確認し全体で共有している (e) 園児らの発言を受け止め称賛する (g) 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の読み聞かせについて発言する 読み聞かせを聞き笑うなどの反応を示す 周りの様子を眺める 手を挙げて質問に答えようとする (f)
	J 保育園 D 保育士	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を左手で持つ 登場人物によって声色を変える (a) 声の強弱をつける (b) 読み聞かせ前に姿勢を直すように促す 質問の答えを絵本で確認し全体で共有する (e) 園児らの発言を受け止め肯定する (g) 園児らが質問に答えられない場合にヒントを与える 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の表紙を見て気づいたことを発言する 前のめりな姿勢 絵本を見やすいように椅子を移動させる 雑音が聞こえても絵本から目を離さない 手を挙げて質問に答えようとする (f) 読み聞かせ後に絵本の内容や質問について思ったことを発言する

表 3-3 読み聞かせ中にみられた保育士及び園児らの特徴（心情質問あり）

自己評価	所属	保育士の姿	園児の姿
自己評価高群	H 保育園 A 保育士	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を左手で持つ 登場人物によって声色を変える (a) 声の強弱をつける (b) 質問に対し園児から返答がない場合そのまま絵本を読み進める 園児らの発言を繰り返し (h) 全体になげかける 質問をおこなう前に絵本の内容を振り返る (c) 	<ul style="list-style-type: none"> 質問に対し無言で首を傾げる 隣の友達と腕を組む 身体を揺らしながら話を聞く 絵本の内容（からかい歌）を口ずさむ
	J 保育園 C 保育士	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を左手で持つ 登場人物によって声色を変える (a) 声の強弱をつける (b) 事前に質問をおこなうことを伝えてよく話を聞くように促す 園児らの発言を受け止め肯定する (g) 質問をおこなう前に絵本の流れを順に説明する (c) 園児らから答えが得られなかった質問に対して保育士なりの見解を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の表紙を見て思ったことを発言する 廊下や窓の外を気に掛ける 背伸びをする
自己評価低群	H 保育園 B 保育士	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を右手で持つ 登場人物によって声色を変える (a) 声の強弱をつける (b) 心情質問に対し園児から答えがない場合に絵本の内容を振り返ったり、園児らだったらどうするかを考えさせたりする 園児の発言を受け止める (g) 園児らから反応が得られなかった質問の際に、絵本の内容を全体で振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本のタイトルから内容を推測する 後ろを振り返る 学生の顔を見る 絵本の内容に対し自分の思いを発言する 絵本の絵を見て反応を示す 絵本の内容を聞き笑う からかい歌に合わせて首をふる 裏表紙の絵に着目する
	J 保育園 D 保育士	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を左手で持つ 登場人物によって声色を変える (a) 声の強弱をつける (b) 園児らの発言を受け止め称賛する (g) 質問をおこなう前に絵本の流れを振り返る (c) 園児が発言したことを繰り返し全体に伝える (h) 	<ul style="list-style-type: none"> 横や下を向いて周囲の様子を気に掛ける 前のめりな姿勢 首を伸ばしながら絵本を見る 擬音語を聞いて笑う

表3-4 読み聞かせ中にみられた保育士及び園児らの特徴（事象質問・心情質問あり）

自己評価	所属	保育士の姿	園児の姿
自己評価高群	H 保育園 A 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を左手で持つ ・絵本のタイトルを全員で読む ・登場人物によって声色を変える (a) ・声の強弱をつける (b) ・歌の場面で読み聞かせをしながら絵本を揺らす (d) ・園児の発言を受け止める (e) ・園児らが回答した際に絵本で内容を振り返り、再度園児らに問いかける ・絵本を読んで保育士なりに思ったことを園児らに伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙のイラストを見て発言する ・絵本の内容を聞き笑う ・ひじをついて読み聞かせを聞く ・椅子を揺らしながら読み聞かせを聞く ・絵本の内容に対して自分の思ったことをつぶやく ・手を挙げて質問に答えようとする (c)
	J 保育園 C 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を左手で持つ ・事前に質問をおこなうことを伝えてよく話を聞くように促す ・絵本のタイトルを全員で読む ・登場人物によって声色を変える (a) ・声の強弱をつける (b) ・質問をおこなう前に園児に自由に発言するよう促す (d) ・事象質問の際に、絵本を振り返り答えの確認をおこなう (c) ・心情質問の際に、園児らの発言を受け止める (e) 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本のタイトルを聞き友達にささやきかける ・絵本の内容を聞き笑う ・絵本の内容を聞き思ったことを発言する ・絵本から目を離さない ・質問に対し自分の思いをつぶやく ・手を挙げて質問に答えようとする (c)
自己評価低群	H 保育園 B 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を右手で持つ ・登場人物によって声色を変える (a) ・声の強弱をつける (b) ・事象質問の際に園児らがわからないと答えたことは教えていた ・園児の発言を受け止める (e) ・質問に関連する物語の前後の流れを全員で確認する (c) ・絵本の内容と園児らの生活を結び付けるような発言をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の内容を聞き笑う ・絵本の内容に対して疑問に思ったことを発言する ・手を挙げて質問に答えようとする (c) ・保育士の質問や発言に対し自分の経験から発言する (d)
	J 保育園 D 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を左手で持つ ・登場人物によって声色を変える (a) ・声の強弱をつける (b) ・質問をおこなう前に全員が答えられそうな質問をはさむ ・手を挙げている園児が多い場合は全員で答えさせる ・質問やその答えと関連付けた会話を園児らに投げかける ・園児らの発言を受け止め称賛する (e) ・質問をおこなう前に絵本の流れを振り返る (c) 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本から目を離さない ・学生の顔を見たり、周囲をみたりする ・体を揺らしながら読み聞かせを聞く ・絵本の内容を聞き笑う ・手を挙げて質問に答えようとする (c) ・質問に対し自分の経験や想像を発言する (d)

園児を肯定あるいは称賛する姿がみられた。特にJ保育園のC保育士（自己評価高群）は、園児らに「正解も間違いもないから思ったことを言ってね」というように声をかけており、下線部 (I) “質問をおこなう前に園児に自由に発言することを促す”姿がみられた。園児の反応においては、自己評価が低い保育士の読み聞かせを聞いていた園児らは質問をされた際や、絵本の読み聞かせの最中に波線部 (e) のように自らの経験と絵本の内容とを結びつけるような発言をしていることが特徴的である。

4. 総合考察

(1) 挿入質問のあり方について

本研究の実践の結果を踏まえて、各回の園児らの姿をもとに絵本の読み聞かせ場面における挿入質問が園児らに及ぼす影響を以下の「挿入質問なし」「事象質問」「心情質問」の3つの観点から述べることにする。

①挿入質問なし

実践第1回目の結果より、挿入質問をおこなわない

場合において園児らの多くは、読み聞かせの最中に前のめりな姿勢になったり、椅子から身を乗り出したりしながら絵本をみている姿が確認できる。中には、読み聞かせの最中に隣に座っている友達と話をしていたり、窓の外などに視線を向け絵本以外のものに気をとられたりしている園児も一部でみられたが、そのような園児らも読み聞かせが進むにつれて絵本の方に視線を向ける姿がみられた。そのため、多くの園児らは集中してそれぞれの保育士の読み聞かせを聞いていると思われる。しかし、読み聞かせが終わった後では波線部 (a) “背伸びをする”姿や波線部 (b) “絵本が「長かった」と発言する”姿、波線部 (c) “「疲れた」と発言する”姿がみられることから、長時間の読み聞かせを同じ姿勢で静かに聞くことは集中している分だけ園児らにとっては負担と感ずることもあるのではないかと考えられる。

結果からわかるように、H保育園では読み聞かせ後に園児らが『ともだちや』について話をしていたり、真似をしたりする姿がみられることや、読み聞かせの

直後に「おもしろかった」と絵本に対する率直な感想を述べる姿がみられる。J保育園ではH保育園でみられたような園児らの姿は確認されなかったが、本研究では各保育園で異なる絵本を読み聞かせに用いているため、絵本の内容の違い及び、各保育園の園児らの特性の違いなどからこのような反応の違いがあったのではないかと推察される。

上記のように、絵本に対する感想を発言することや絵本の登場人物を真似することは、十分に園児らが読み聞かせを楽しみ、絵本に親しんでいるということではないかと考えられる。しかし、読み聞かせの場面では園児らの反応がみられず、読み聞かせが終わり自由遊びにむかう際には園児らの反応がみられたことから、挿入質問がなく、しんとした静かな雰囲気の中でおこなわれる読み聞かせの場合では、園児らが思ったことや感じたことがあっても発言しにくい雰囲気となっているのではないかと考えられる。

さらに、実践の第1回目ということやクラスの半分の人数で読み聞かせをおこなっていることなど普段の環境と異なった環境であったことも、園児らにとっては発言しにくい雰囲気となってしまったのではないかと推察され、実践をおこなうにあたり見直すべき点であると考えられる。

②事象質問

実践第2回目及び4回目の結果から、事象質問をおこなった際の園児らの姿をみると、挿入質問をおこなわなかった第1回目の実践のときと同様に、読み聞かせの最中には、椅子から身を乗り出したり、前のめりな姿勢になったりしながら読み聞かせを聞く姿がみられ、読み聞かせの最中に事象質問をおこなうことによって園児らの集中がなくなるということはないと思われる。

さらに、挿入質問をおこなわなかった実践第1回目と大きく違う点としては、読み聞かせの最中や読み聞かせ後に、園児らが笑ったり、絵本の内容について疑問に思ったことや感じたことを発言したりする姿がみられたことである。このことから、事象質問をおこなうことで、読み聞かせの最中であっても自分の感じたことや疑問に思ったことを自由に発言してもよいという雰囲気となり、上記のような園児らの反応がみられたのではないかと考えられる。特に、読み聞かせの最中にも質問をおこなってもらったH保育園では読み聞かせ後にすべての質問をおこなってもらったJ保育園よりも、質問の場面以外でも園児らのつぶやきが多くみられたことや、質問をはさむことによって絵本より

も周囲の様子に気をとられていた園児らが絵本の方に視線を向けなおす姿から、読み聞かせの最中に質問をおこなうことで園児らのつぶやきが活発になり自分の思いを表現できることや、絵本へ集中しなおすことができるのではないかと推察される。

質問の際には、多くの園児が手を挙げ積極的に質問に答えようとする姿や質問に答える際に自らの生活上の経験と結び付けたような発言をする姿がみられた。このことから、読み聞かせの内容を集中して聞いていたことや、その内容を絵本の出来事だけで留めるのではなく自らの生活経験と結び付けることで、より絵本を身近なものとして感じているのではないと思われる。

また、本研究の実践においておこなわれた事象質問を改めてみると、登場人物の名前を問う質問や、絵本のイラストから答えを読み取ることができる質問（H保育園：キツネからもらったプレゼントは何か、J保育園：プテラノドンの体の色は何色か）など、比較的絵本の中でも繰り返し述べられている部分や物語の内容の要となる部分を質問として取り上げていることから、園児らにとって答えやすい質問内容であり、絵本の内容理解の促進にもつながったのではないかと推察される。さらに、質問に対する答えを、絵本を用いて全体で確認することによってもその場にいる全員が再度絵本の内容を振り返ることができ、質問をおこなわれなかった際よりも絵本の内容を詳しく理解することができたのではないかと考えられる。

それに加えて園児らの表情からは、質問に答えることができたという満足感や、保育士に自分の発言を受け止めてもらい、「よくみていたね」などとほめられることにうれしさを感じているように思われ、質問の受け答えによる園児らと保育士との間のコミュニケーションにもつながるのではないかと考えられる。

以上のことより、事象質問をおこなうことで園児らの絵本に対する世界観が壊れるということはなく、寧ろ自分たちの生活と物事を結び付けて発言している様子や、保育士とのコミュニケーションへとつながる様子から、絵本の内容を理解し楽しむことができるのではないかと考えられる。

③心情質問

実践第3回目及び4回目において読み聞かせの最中に心情質問をおこなった際の園児らの姿から、読み聞かせに対し集中して聞いている様子は変わらず、保育士の読み聞かせに合わせて身体や首でリズムをとったり、絵本の内容を聞き笑ったりするという反応がみられることから、読み聞かせの最中や読み聞かせ後に物

語の登場人物の心情を問うような質問をおこなうことで、集中力がなくなるといことはなく、園児らは読み聞かせを十分に楽しむことができているのではないと思われる。

また、事象質問をおこなった際と同様に、心情質問をおこなった際には、挿入質問をおこなわなかった際よりも読み聞かせ中にみられる園児らの姿は様々であり、絵本の内容を繰り返し口ずさんだり、自分の思ったことをつぶやいたり読み聞かせの場面を通じて自分の思いや考えを友達同士で共有できる機会となっているのではないかと推察される。

しかしながら、園児らの質問に対しての反応をみると、心情質問のみをおこなった実践第3回目では、事象質問のみをおこなった実践第2回目よりも手を挙げて発言しようとする園児が少なく、なかなか園児らから質問の答えは得られにくかった。

事象質問と心情質問の両方をおこなった実践第4回目では第3回目の際よりも質問に対して園児らから活発に反応が返ってきた。

これらのことから、物語の登場人物の心情を問うような質問は事象質問とは異なり正解が決まっているものではなく、園児らそれぞれに感じることや思うことがありその思いを言葉に表すことは難易度が高いのではないかと考えられる。また、心情質問に答えるためには、読み聞かせを聞くことや絵本のイラストを見ることから、絵本の物語の中で何が起きているのかという登場人物が置かれている状況や物語の背景を読み取り、理解している必要があると思われる。そのため、心情質問は単独でおこなうのではなく絵本の内容を一度振り返った後や事象質問などと組み合わせておこなうことで、園児らにとってはより登場人物の心情に寄り添いやすくなるのではないかと考えられる。さらに、園児らの反応から、心情質問において登場人物の心情を問うだけではなく園児ら自身だったらどうするかや、それはなぜかを問う方が園児らにとっては答えやすく、より自分の感じたことや思ったことを素直に言葉として表現できるのではないかと考えられる。

また、心情質問に答えた際には保育士から答えを強制されることはなく、自分の感じたことをそのまま受け止めてもらえることや、その考えを肯定及び称賛されることで、それぞれの園児が絵本に対し自分なりの解釈を持つことにつながり、独自の絵本の内容に対する世界観を持つことができるのではないかと推察される。

以上のことから、読み聞かせにおいて心情質問をお

こなうことは、物語の登場人物の心情に寄り添うことや自分なりの絵本の世界観を築くことにつながり、園児らの想像力や他者の気持ちを考える力の発達や、自分の思いを発言することで友だちと自分の持つイメージを共有することにつながり、従来根拠のないままに言われていたような園児らの絵本に対する楽しみを奪うということには、必ずしもつながらないのではないかと考えられる。

(2) 自己評価の違いによる保育士の特徴

各回の読み聞かせの実践における保育士4名の共通する特徴として、下線部(A)のように登場人物によって声色を変えることや、下線部(B)のように声の強弱をつけることが挙げられることから、総合的な保育場面における自己評価の違いによって、読み聞かせの場面でみられる保育士らの特徴に大きな違いはないのではないかと考えられる。

登場人物によって声色を変えることで園児らに絵本の登場人物のなかで誰が、何を話しているのかが伝わりやすくなることや、声の強弱をつけることで場面の変化が伝わりやすくなることなどが考えられ、園児らがより絵本の世界観に深く入り込むことができるのではないかと推察される。また、読み聞かせの際にあまり集中できず窓の外を見たり後ろを振り向いたりしている園児らは、読み聞かせをしている保育士の声が少し大きくなったタイミングなどで絵本に視線を向けなおす姿もみられたため、場面によって声の強弱をつけること及び、登場人物によって声色を変えることは園児らが読み聞かせを楽しむためのひとつの手立てとなっていると思われる。

保育士の声以外の特徴に着目すると、すべての保育士が読み聞かせを聞く園児らよりも少し高い位置で絵本を持ち、全員に絵本が見えるように配慮する姿がみられたことから、読み聞かせを始める前に園児らが読み聞かせを集中して聞くことができるように環境設定をおこなっていたのだと思われる。

質問をおこなう際には、自己評価の高い保育士は絵本の流れを説明したうえで質問をおこなうことが多くみられ、自己評価の低い保育士はそのままの流れで質問をおこなうことや園児らの生活経験に結び付けて考えさせることが多くみられた。また、質問をおこなった後の保育士の反応としては、すべての保育士が園児らの発言を繰り返したり、相槌をうったりすることで、肯定的に園児らの意見を受け止めていたように思われる。そのようにすることで、園児らと1対1のやりとりにはならず、1人の意見を全体で共有して、異なる

意見が出てくることもあれば全員で共感しあうことにもつながり、保育士と園児だけではなく園児同士でのコミュニケーションにもつながり得るのではないかと考えられる。

さらに、本研究の保育士の選定にあたり事前におこなった保育場面における自己評価に関する5件法のアンケート結果をみると、4名の保育士は共通して“子どもと視線をあわせることができる”“子どもの名前を呼んで話しかけることができる”“子どもの思いを受け止めることができる”“子どもを褒めることができる”“一人ひとりの子どもに願いをもって関わるることができる”などの項目の評価が高く、総合的な保育場面における自己評価に差はあるものの、園児らとの関わりにおいて心がけているポイントは同じであり、普段から園児らとの関係性や信頼関係を築くことなどを重要視しているのではないかとということが示唆される。

以上のようなことから、読み聞かせ及び、挿入質問をおこなう際に自己評価の違いによる保育士の特徴の差は特に感じられず、それぞれの保育士が読み聞かせの対象となる園児らとの関係性を大切にしており信頼関係を互いに築いていたのではないかと考察される。したがって、読み聞かせの対象となる園児らの特徴を把握し、保育士と園児らの相互の関わりから本研究では、お互いに楽しさを感じられるような場となっていたのではないかとと思われる。

〈謝辞〉

本研究を進めるにあたり協力いただきましたH保育

園・J保育園の保育士の皆さん、特にA・B・C・Dの保育士に感謝申し上げます。

〈引用文献〉

- [1] 佐々木宏子(1997) 絵本.岡田正章編.現代保育用語辞典.フレーベル館, 39.
- [2] 尾崎恭子(2005) 幼児の精神発達と絵本.中国学園大学紀要, 4, 61-67.
- [3] 今井靖親・森田健宏・杉山美加(1999) 幼児の物語理解に及ぼす挿入質問の効果—絵本の読み聞かせに関する心理学研究—.桜花学園大学紀要, 1, 19-35.
- [4] 水内豊和・野崎美衣(2015) 読み聞かせにおける挿入質問のあり方に関する研究—保育環境としての保育士像についての検討から—.第62回日本小児保健協会学術集会講演集, 74, 239.
- [5] 水内豊和・澤田美佳・野崎美衣(2015) 読み聞かせにおける挿入質問のあり方に関する研究—(1) 保育士が重要視している読み聞かせのポイントについての研究—.第68回日本保育学会発表要旨集, 93.
- [6] 大嶋恭二・増田まゆみ他(2002) 新・保育士養成講座第10巻保育実習.全国社会福祉協議会.
- [7] 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構調査広報委員会(2007) 子どもたちに読み聞かせたい絵本アンケート(調査結果報告). https://youchien.com/kikou/report/attqmr00000002v1-att/ehon_20080225.pdf (2019.1.8最終確認)